

## 団長の独り言

「新しい風が吹く中での稽古スタート」

2月26日に「人生芸夢く夢のとおり道く」を終え、暫くの劇団ふあんハウスの活動はお休みをしております。

そのお休みの間に、この「団長の独り言」は、メンバー達が持ち回りで書いてくれておりまして、私はといたしますと、来年の1月に上演する事が決まった新作の執筆活動に勤しんで：勤しむ：つもりだったのに、ああああ！なんとということだ！3月、4月となんだか色々ありまして、

新作なんてほとんど描く事が出来なかった：：というか、描く作業からなんとなく逃げていたような気がする。

まいったなあ〜劇場は決まっているし、日程も決まっているのになあ…。

肝心の脚本がね、どういう方向性で行くか？全然決まらず苦しみまっ最中。

そんで、あれよあれよでもう5月！

いよいよ7月15日(土)16日(日)に開催する、劇団ふあんハウス第43回公演「人生芸夢く夢のとおり道く」の稽古が、6日(土)より始まった。

何名かのメンバーは、それぞれの場所、何かと顔を合わせてはいたけれど、稽古場でほぼ全ての出演者が顔を揃えたのは2月公演以来なので、少し照れくさい。

でも皆さん、元気で何よりだ。

そんな中、新しい風を吹かせてくれる新メンバーもいる。

須藤あゆみさん、年齢は18歳。

劇団ふあんハウスの事はネットで見つけ、「出演者募集」の欄に目が止まり、彼女の心はざわめき始め、劇団ふあんハウスがアップしているYouTube動画から、私の描くこの団長の独り言、公演のアンケート結果、公演写真等、そしてSNSと、

何から何まで隅々まで観て、益々出演したいという想いが募り、募集年齢が20歳からとなっているにも関わらず、勇氣を出して劇団宛てにメールを送ってくれたのだが、その文面からは、並々ならぬ熱意が伝わってくる。

そこで一度お会いしてみようと思いい、4月29日に稽古場にて主要メンバーと共に面談を行った。

ご本人の写真も、プロフィールも何も貰っていないし、どんな子で、どこに住んでいるとか等も全く分からないけれど、メールをくれた文面の丁寧さで、彼女の人となりやなんとなく伝わってきたので、細かい事は会ってから伺ってみようってことで、とにかく稽古場に来て貰う。

予定時刻のちょっと前に稽古場に行けば、彼女と劇団メンバーは既に集まっていた、一通り雑談は済ませていたようで、何やら楽しげな雰囲気。

「よろしくお願いします」の彼女の第一声の挨拶を聞き、具体的な話はまだ何

も聞いてもないのに、彼女に充てた役の人物設定が私の中で動き始める。

でも、一応エチュードというちょっとした寸劇を行い、どの程度お芝居のセンスがあるのか？も見せてもらおうが、第一印象通りの素直で感性のいい芝居。

「いいですね！では、5月6日からの稽古に来てくださいね。」と彼女に伝え、あとは現在大学生であるって事や、高校時代に演劇部でバリバリやっていた話なんかも聞いて、話の最後に「そうだ！ところで、どちらから通われるんですか？」と、モノのついでのように聞いてみたら！

「山形です」と言うではないか！

一瞬耳を疑うが気を取り直し、「あの：出身地じゃなくて、どちらに住んでいるの？」と聞き返すも、「山形です」という返事。

「えっ！???山形って、あの山形県?」

「はい!」

「えええええ!!!!!!」

なんと！彼女は毎週末、山形から東京の劇団ふあんハウスの稽古場まで通うというのだ！もうびっくり！

それほどまで劇団ふあんハウスでお芝居をやりたいって、思ってくれている。

「だ、大丈夫なの?」と、ここからかなり突っ込んで、親御さんの承諾を得たのか?とか、土、日稽古終わってどうする

の?等事細かく聴くと、無謀なようで、キチンと計画を立ててはいるようだし、彼女の本気さがひしひしと伝わり、途中で「やっぱり通いきれませんか?」って言うような子ではないと確信し、出演して貰う事になった。

こうして新メンバーの須藤あゆみさんの出演が決まり、先週の土日より彼女も稽古に参加。

彼女は持ち前の明るさで、あっという間にみんなと打ち解け、早速稽古に入ると、気持ちのいいくらいダメがよく通る。

めっちゃめちゃいい感じだったので、よっしゃ！これで抜けた「さゆり」役もなんとかなる!と思っていた週明けの月曜日、四枝美和さんからメールが届く。

四枝さんは車椅子ユーザーの女性で、現在大学4年生。

今年の2月公演の直前頃だったかな?

劇団ふあんハウスの事をネットだと思っけれど見つけ、「車椅子ユーザーです。入団できますか?」というような内容の問い合わせを受けた。

ちようど公演間近だったので、「まずは劇団ふあんハウスのお芝居を御覧になって、それで気に入っていただければ、公演終了後、あらためて連絡下さい。」というお返事を出したら、彼女はチケットの予約をネットにて行い、赤坂の劇場まで一人で来て、「人生芸夢く夢のとおり道く」を一番前の席で観劇してくれた。

終演後、お客様へのお見送りでロビーに出た際、四枝さんの姿を発見したので、彼女に近寄り、「ようこそ！」とか、「いかがでしたか？」とかそんな内容でお声掛けしたら、「とっても良かったです！」って、すごくキラキラした目で答えてくれたので、翌日、あらためて彼女宛てに活動内容の詳細を描いて、「一度お話を伺わせて下さい」というメールを出し、4月8日、稽古場で彼女との面談を行った。

劇団ふぁんハウスでは、これまでも有名な車椅子ユーザーのメンバーが大活躍してくれたので、車椅子の役者が参加するという事に関しては、それほど特別な感覚はなかったが、ご自宅が結構遠方。まあね、須藤あゆみさん程の距離ではないにせよ、稽古終了が21時を過ぎるので、そんな時間から約2時間くらいかけて毎週、電動車椅子で一人で帰路につくというのは、ちよいと心配ではあったけれど、劇場で初めてお会いした時と同じ、キラキラした目で私の話を聞く彼女と接し、相当アクティブに、これまでも活動しているという話を伺い、「この子なら大丈夫」という想いになり、芝居のセンスを見るために簡単なエチュード(寸劇)を行うと、彼女は奇をてらう事なく自己解放し、ノリノリで演じる。

これだけの迫力ならば、電動車椅子の存在を消す迫力ある芝居を發揮してくれるのは間違いない。

あとは、本当に毎週通えるかどうか？を冷静にじっくり考えて、それで、お返事を下さいという事にした。

その翌日、彼女からお返事をいただく。私の話を聞いて、益々劇団ふぁんハウスの一員になりたい！という想い募ったものの、大学4年生という事で、就職という事が待ち受ける中、仕事をしながら芝居に参加できるか？体力的に大丈夫か？等々：：1か月ほど考えてから、返事をくれるというメールを頂いた。

こういうメールをくれる場合、大抵は「すみせん：：やはり今回は、出来そうにもありません。また落ち着いたらぜひ」みたいなお返事をいただく場合が圧倒的に多いので、「やはり難しいか」と推測しつつ、彼女の参加は私の中で諦めていた。すると！その1か月後、「劇団員になりたい！」という熱いメールが届いたじゃないですか！ただ、すでに全てのキャストは揃ってしまい、新生「人生芸夢」チームが動き出したばかり。

しかし四枝さんはこの1か月間、それはもうめちゃめちゃ悩んだんだと思う。それで「よし！」と決意して、勇気を振り絞って「劇団ふぁんハウスの劇団員になりたい」って事を伝えてきてくれた。

そんな想いがすごく分かるだけに、「今回はキャストが全て決まっちゃったので、スタッフとして参加してください」という

ような事は、彼女の熱い想いを考えると、とてもではないが、そんな返事は出来るはずがない。

彼女からメールを確認したその日のうちに、「役を追加する」って事で想いをめぐらす。

ただ：：事はそう簡単ではない。

一度完成して大好評の中で幕を下ろした作品に役を追加するなんてことは、全体のバランスもあるし、クオリティーを上げるためにも、いかにも「役を追加しました」って感じのモノにはしたくない。

役を追加するからには、物語の中で重要な役割の人物として登場してもらいたいけれど、須藤あゆみさんが参加する事で、彼女の役柄に合わせて脚本を描き直し、ようやく新しい脚本が完成し、先日から稽古が始まったばかり。

そこでまた書き直すとなると、どうしましょう？ってところだが、もうねーそんなゴチャゴチャ悩んでいる場合じゃない。

大まかな構想しか浮かばない状態の中、メールを頂いた翌日、四枝さんにお返事を書いた。

「よくぞ！決心してくれましたね。

2シーンのみですが、かなりセリフのある重要な役をやっていただきます」と。

それから数日間、試行錯誤を繰り返して、本日の日曜日、彼女演じる「真子」とい

う役を追加した脚本が完成し、とりあえず完成した改訂版の脚本を四枝さんにPDFファイルにしてメールにて送った。

ちなみにこの日は、四枝さんが稽古場に初参加する日。

つまり彼女は自分が演じる役がどんな役か稽古場に来る道中で知る事となり、初見状態で「真子」という役を演じた。

当然ながら「真子」に絡む他のメンバー達にしてみても、初見でいきなり演じるようなものだったのだが、いやあく自分で言うのもなんなのだが、「真子」という役が加わった事により、「人生芸夢」って芝居がすごく良くなったじゃにですか！

稽古場の誰もがそれは実感していた。それを一番感じたのは、真子と直接の絡みがある「香」演じる萱場まり恵さんだと思う。

「香」の幅も広がったもんね。

こうして若き新しきメンバー達が加わり、新鮮な風が吹く劇団ふぁんハウスは、前回とはまるで違う「人生芸夢く夢のとおり道く」となっていくのでありました。